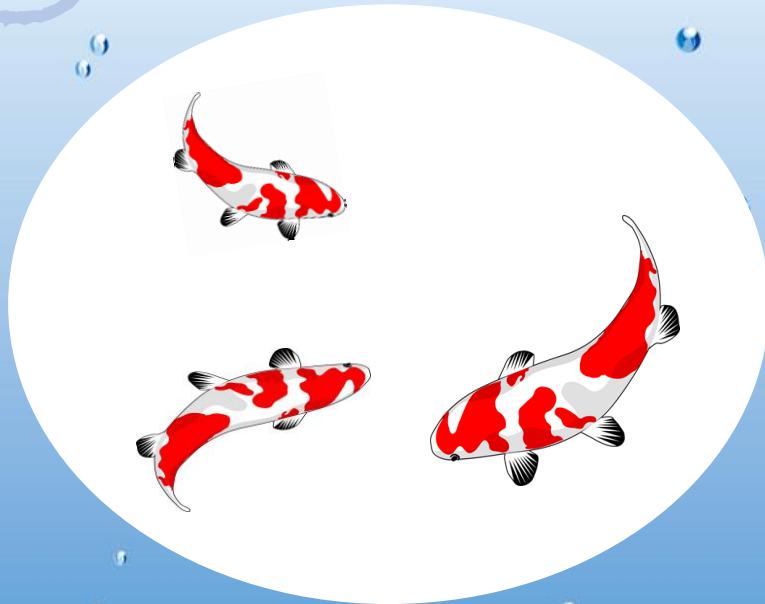


未来を創造する
Region of Bubble
【バブルの領域】

JAPAN



LandBell

魚類の養殖時における菌数の測定試験

広島県にある、福山大学では、年々減少傾向にある瀬戸内海の小魚を養殖する研究に力を入れている。その中で「しまなみテッポウギスプロジェクト」というシロギスを対象にした研究を進めており、平成29年11月から販売開始したクオリス技術を取り入れ、共同研究をスタートした。現在までの試験では、水が汚れない（苔が生えにくい）ことや、高い溶存酸素濃度を安定して保つことが出来ることなどを確認した。又、特殊ろ過材【アクアソル】の強力酸化還元力とろ過機能を並行して活用、更なる水質改善を図るとともに、【WHITEアクアソル】を水槽の底に敷き詰めることにより、魚の発色を、養殖魚の特徴でもある黒く日焼けしたような色から、本来の天然物のような、パールピンクに発色した固体の育成にも貢献する確認をしている。



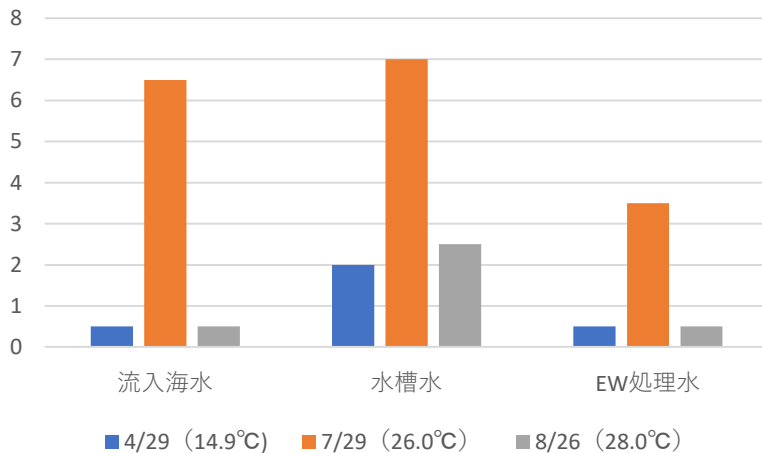
試験中の10 t 水槽



水槽内のシロギス

それ以外に他の微細気泡発生器では効果が見えなかった、殺菌に関しての効果があることが確認できた。下記のグラフでも分かるように、クオリス生成装置を介した海水（LB処理水）、特に気温が高い7月と8月にその効果が確認できる。このことから、魚類の飼育に一般的に使用されている、UVランプやオゾン発生装置等に掛かるランニングコスト大幅な削減が期待できる。

養殖期間中の菌数測定試験



クオリス生成装置

	4/29 (14.9°C)	7/29 (26.0°C)	8/26 (28.0°C)
流入海水	0.5	6.5	0.5
水槽水	2	7	2.5
LB処理水	0.5	3.5	0.5